

指導と評価

(1) 学習評価の改善に関する基本的な考え方について

学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要であり、学習指導要領の下での学習評価の改善を図っていくためには以下の基本的な考え方に沿って学習評価を行うことが必要である。

- ① きめの細かな指導の充実や児童生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価を引き続き着実に実施すること。
- ② 新学習指導要領の趣旨や改善事項等を学習評価において適切に反映すること。
- ③ 学校や設置者の創意工夫を一層生かすこと。
- ④ 児童生徒の学習状況を評価するに当たっては、観点別学習状況の評価や評定には十分示しきれない、児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況等についても評価し、このような個人内評価を積極的に児童生徒に伝えることが重要である

(2) 評価における観点

① 「関心・意欲・態度」

「関心・意欲・態度」の観点は、各教科の学習に即した関心や意欲、学習の態度等を対象としたものである。

② 「思考・判断・表現」

「思考・判断・表現」の観点のうち「表現」については、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味している。つまり「表現」とは、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としている。

③ 「技能」

「技能」の観点では、従前の「技能・表現」が対象としていた内容を引き継ぐことになる。これまで「技能・表現」については、たとえば社会科では資料から情報を収集・選択して、読み取ったりする「技能」とそれらを用いて図表や作品などにまとめたりする際の「表現」をまとめて「技能・表現」として評価してきた。今回の改訂で設定され「技能」については、これまで「技能・表現」として評価されていた「表現」をも含む観点として設定されることとなった。

④ 「知識・理解」

「知識・理解」の観点は、各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたものである。



「総合的な学習に時間」○学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて定める。例えば「よりよく問題を解決する資質や能力」「学び方やものの考え方」「主体的・創造的・協力的に取り組む態度」等。

○視点に沿って各学校において育てようとする資質や能力を踏まえて定めたりする。例えば「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」等。

○教科との関連を明確にし、総合的な学習の時間にかかわる「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」等と定めることも考えられる。

「特別活動」・・・・・・・・・集団活動や生活への関心.意欲.態度
集団の一員としての思考.判断.表現
実践集団活動や生活についての知識.理解

「特別支援教育」・・・「個別の指導計画」の作成が在籍する児童生徒に対し、義務化されたことに伴い、個別に目標を設定し、個別の指導計画をふまえた評価を行い改善に生かす必要がある。

(多面的に評価)

・学習の過程や参加・取組状況、観察、ノート、発言状況、作品等
(ペーパーテストを行うときの配慮)

・読字(ルビをうつ)、字や図表の拡大、時間の延長、パソコン利用等